INABA

マルチメディアライフを支える新情報配線システム

Abaniact アバニアクト

情報盤
施工マニュアル

安全上のご注意

施工する前に必ずお読みください。

●ここに示した内容は、使用者および他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使い頂くための注意事項が記載されています。
●使用されている警告表示および図記号の意味は以下のとおりです。内容をご理解の上、本文をお読みください。

誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	この表示を無視し、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性は想定されることを示しています。
⚠注意	この表示を無視し、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性または物的損害の発生が想定されることを示しています。

お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⃠	禁止（してはいけないこと）を示します。
❗	強制（必ず守ること）を示します。

⚠警告

⃠ 屋外または外壁の内壁面に設置しないでください。本製品は、屋内専用となっています。

⃠ 電源コードや内部機器を加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねないでください。また、重い物をのせたり、はさみこんだりしないでください。本製品や内部機器の故障、発煙、火災の原因になる可能性があります。

⏚ アースを確実に取り付けてください。故障や漏電の場合に感電する可能性があります。

❗ 交流100Vで使用してください。過電圧を加えると過熱し、故障、発煙、火災、感電の原因になる可能性があります。

❗ 付属の電源ケーブルを使用してください。本製品の付属以外の電源ケーブルを使用した場合、故障、発煙、火災の原因になる可能性があります。

⃠ 電源をONにした状態で本製品や内部機器の操作や接続をしないでください。感電の原因になる可能性があります。

❗ 本製品を壁面に確実に取り付けてください。天井面や上下逆さ、傾ける等の不安定な状態で取り付けられた場合、本製品の脱落によってする怪我や故障の原因となる可能性があります。

❗ 低圧屋内配線と弱電流配線が接触しないように配線を行ってください。

❗ 結線する場合は、電線を端子の奥まで確実に差し込んでください。

⚠注意

⃠ 以下の場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 暖房器具などの近くなど高温になる場所
- 台所、浴室、洗面所などの水気や湿気の多い場所
- 振動のはげしい場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ほこりの多い場所やじゅうたん等の保温性、保湿性の強い場所
- 腐食性ガスの発生する場所
- 強い磁気や電磁波が発生する装置がある場所
- 壁の中などお手入れが困難な場所
- 住宅以外の屋内設備（本製品は家庭環境における使用を想定しています）

本製品や内部機器が損傷することによって、故障、発煙、火災の原因になる可能性があります。

設置場所について

●本製品は、メンテナンスしやすく、配線効率の良い住宅の最上階の納戸等に設置することをおすすめいたします。
●テレビやラジオなどの家電製品が置かれた所には設置しないでください。受信障害や通信障害の原因になる可能性があります。

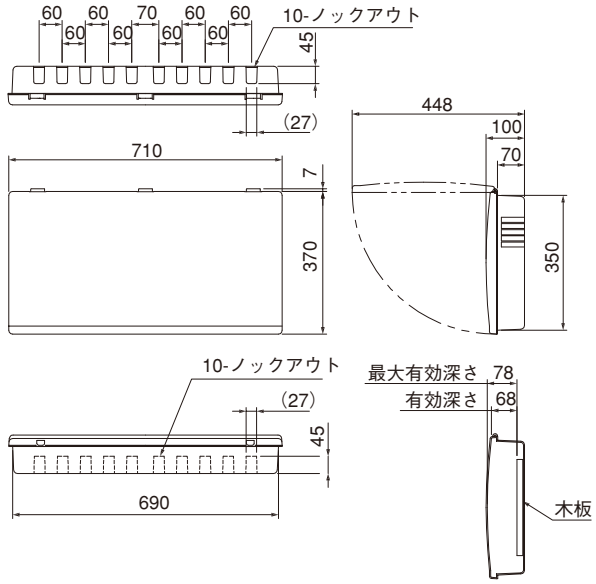
施工事業者様へ
●本製品の施工には、電気工事士の資格が必要です。
●本製品の施工前に必ずこのマニュアルをお読みください。
●この施工マニュアルは、取扱マニュアルとともに必ずお客様にお渡しください。

因幡電機産業株式会社
環境システム事業部

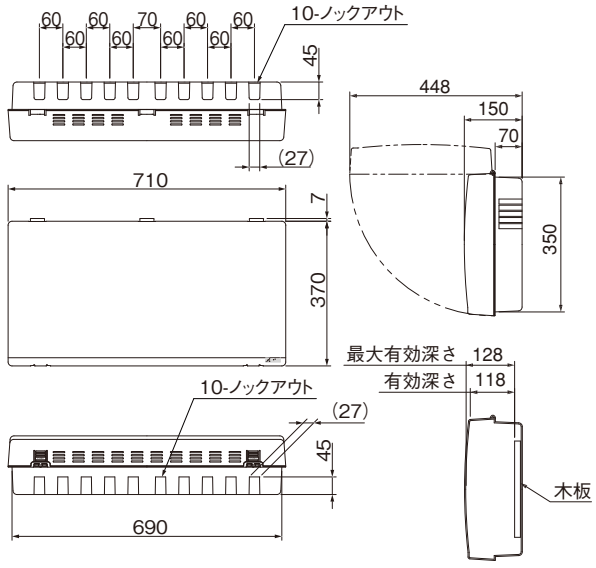
AB-施-13-0

1 基準寸法図

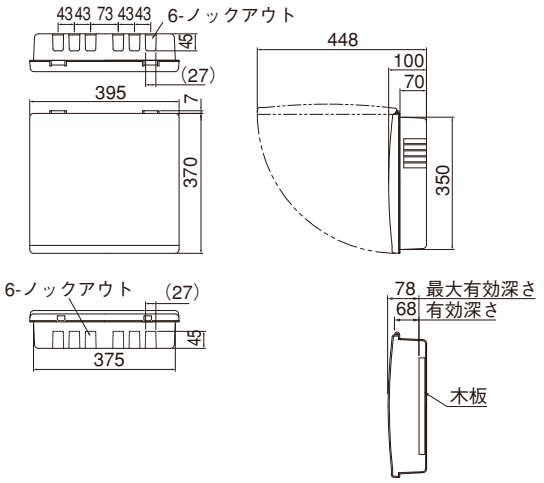
スタンダードボックス



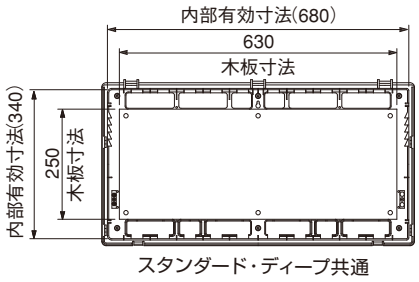
ディープボックス



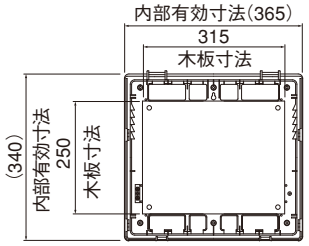
スモールボックス



カバーを取り外した図

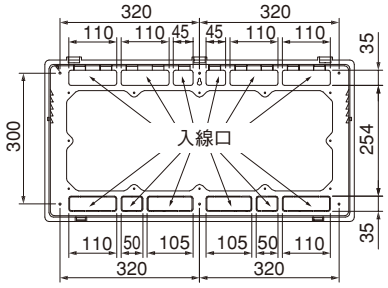


スタンダード・ディープ共通

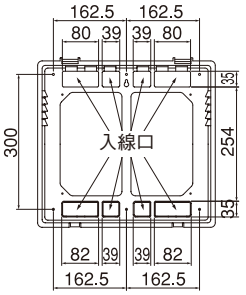


スモールボックス

背面入線口図（下部ノックアウトは現場でキリトリ）



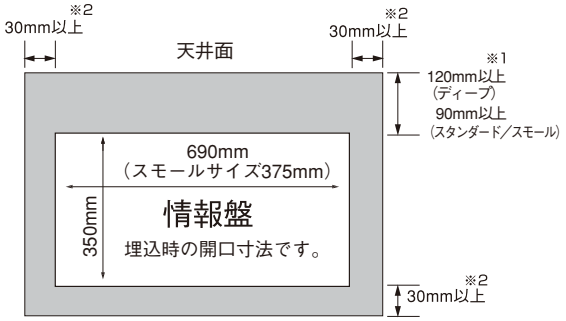
スタンダード・ディープ共通



スモールボックス

設置スペース・開口寸法図

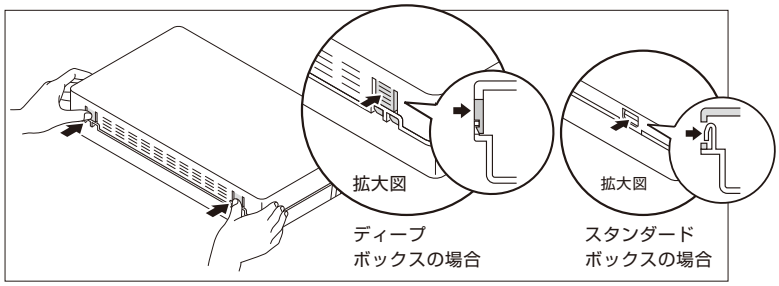
設置面には、下図の網掛け部の寸法以上を確保してください。
※1：情報盤から天面まではカバーの開閉のために必要です。
※2：情報盤の下面と左右は、メンテナンス及びスリットの放熱のために必要です。



2 施工に際して

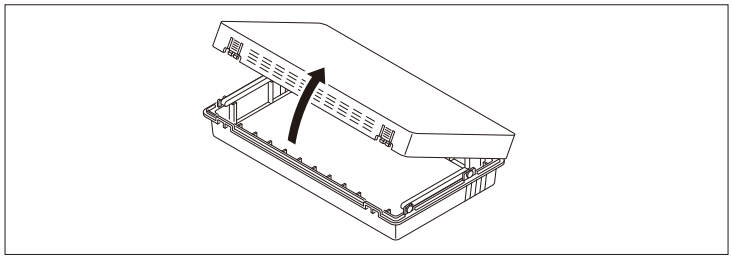
カバーの開け方

1.カバー下面の両サイドにあるツメを押し、カバーの引っ掛けをはずします。

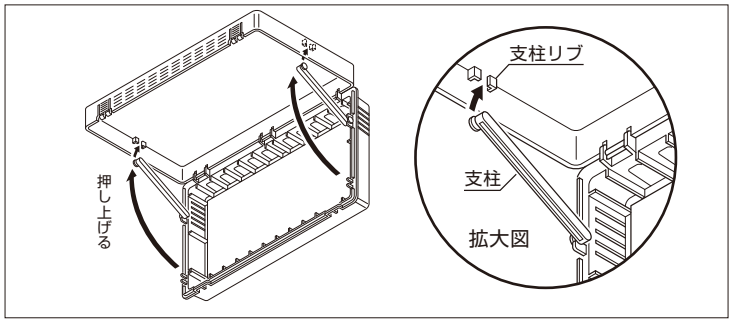


2.カバーを上に持ち上げて開けます。

必ずツメを押してカバーを開けてください。
ツメを押さずに無理にカバーを開けると、ツメが折れる場合があります。
※折れたツメは修復できません。



3.BOXカバーは開いた状態で保持できるようベース両側サイドに支柱があります。この支柱を下から上に押上げ、カバー部裏面の支柱リブに止めて保持してください。

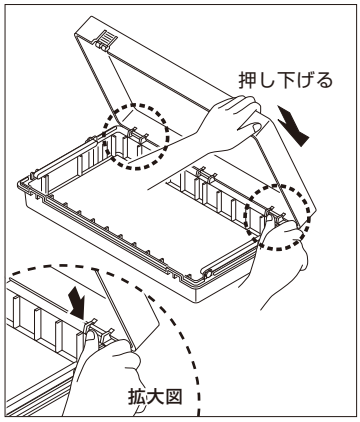


カバーのはずし方・取り付け方

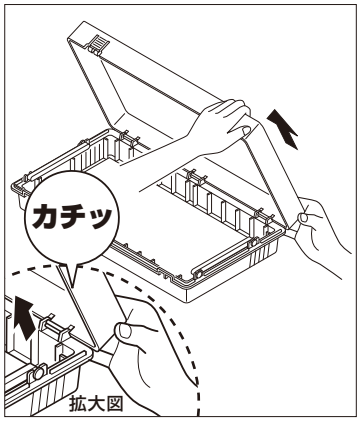
1.カバーは3点（スモールボックスの場合は2点）のヒンジのうち、両端の2点で止まっています。カバーを押し下げるようにして、このヒンジをはずします。

2.装着は、ヒンジを引っ掛け、取り外し時と同様の両端の2点を、カバーを押し上げるようにして行います。この時、「カチッ」と音がしてスムーズに開閉できることを確認してください。

カバーのはずし方



カバーの取り付け方

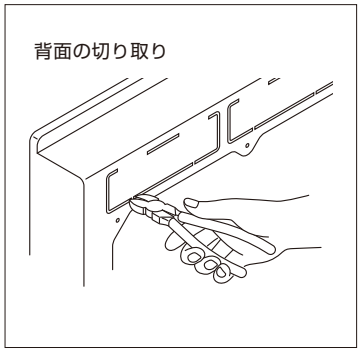


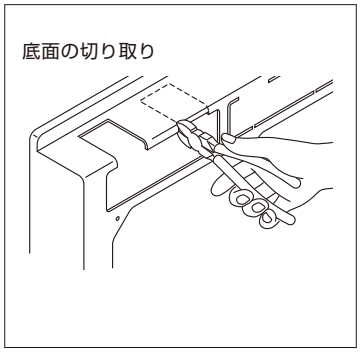
ノックアウト加工方法

1.BOX本体裏側から背面のノックアウトゲート部をニッパー等で切り取ります。

2.切り取り済み背面のノックアウトから底面のノックアウト「キリコミ」部にニッパー等で切り込みを入れ、底面のノックアウトを切り取ります。

配線等をキズつけたりケガをしないように、切り取った部分のバリはきれいに仕上げてください。



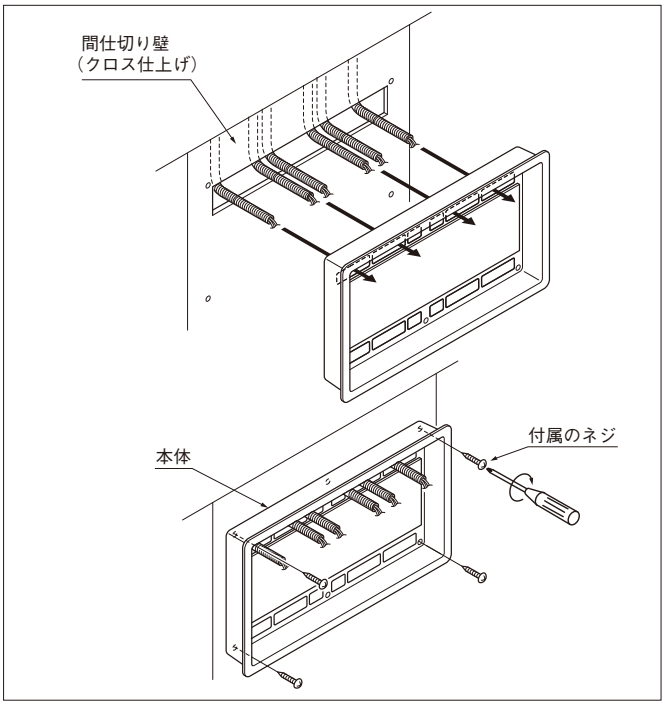


3 情報盤の取付

露出の場合

1.各ケーブル、配管を壁内敷設後、1ページの背面入線口図に従い間仕切り壁を開口し、そこからケーブル等を引出し入線口からBOX内部に取出します。
（梱包材の天板に各寸法が表記されています）

2.情報盤BOX本体は付属の木ネジ（φ4×35）にて上下4又は6箇所で下図のように固定します。



木ネジ固定部に、材木等がない場合、必ず補強下地を入れてください。

取付壁面は必ず平面であることを確認してください。平面ではない壁面に取り付けますとカバーが閉まらない場合があります。

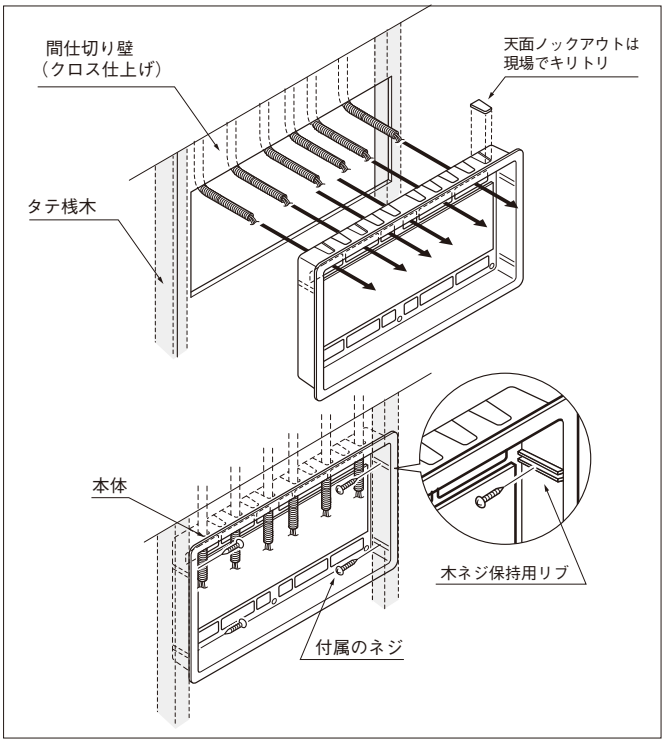
埋込の場合

1.1ページの開口寸法図に従い間仕切り壁の木下地にタテ桟木を組みます。

2.各ケーブル、配管を壁内敷設し、ボード貼付け、開口及びクロス仕上げをします。

3.ケーブル等は一旦露出時の背面入線口から引き出しBOX内部に取出し、BOXを埋込む（押込む）と同時に下図の様に天面ノックアウト側にずらして設置します。

4.情報盤BOX本体は付属の木ネジ（φ4×35）にて横側4箇所でタテ桟木に固定します。（この時BOXの木ネジ保持用リブをご利用ください）

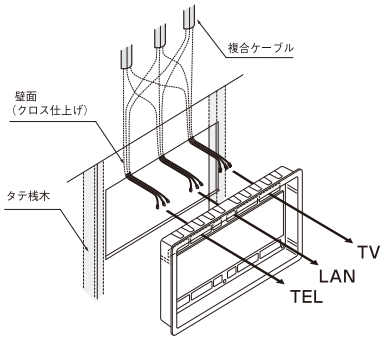


取り付けは開口寸法通りで行ってください。無理に取り付けますと、BOXが変形しカバーの開閉に支障をきたす場合があります。

取付にあたっては、付属の木ネジ以外を使用したり、木ネジ保持用リブ以外の箇所に木ネジを埋めたりしないようにしてください。

してはいけない行為（禁止行為）

- BOX内部はネットワーク機器を収容するスペースです。余長分のケーブル等を入れないでください。
- 複合ケーブルをご利用の場合、壁内等で各ケーブル（TEL/LAN/TV）毎に束ねてBOXに引き入れてください。
（左図参照）



4 TELケーブル 結線方法（電話端子台付の場合）

圧着ソケットケーブル結線方法

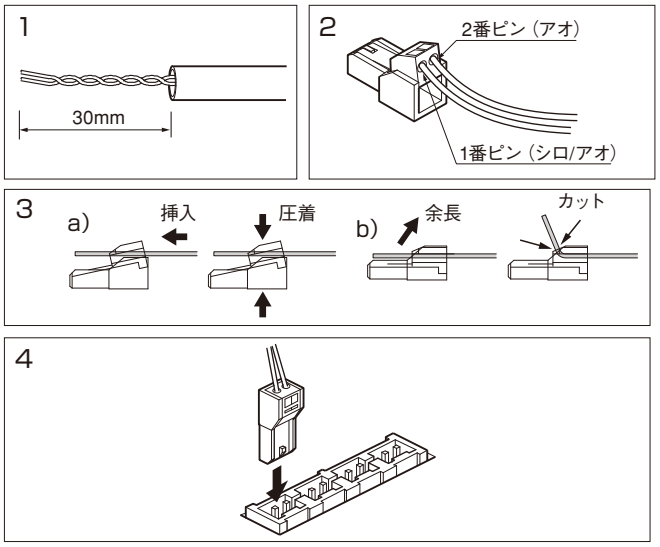
1.ケーブルシースを30mmカットします。
※使用可能ケーブル　導体径：φ0.5

2.添付ソケットに被覆ごと心線を挿入します。
ケーブル挿入の際、ケーブルの色とソケットのピンの関係は以下の様になっておりますので必ず確認してください。

1番ピン	シロ/アオ
2番ピン	アオ

3.電工ペンチを使用して、被覆ごと心線を圧着します。
a）挿入口にケーブルを挿入し圧接します。
b）余長ケーブルは持ち上げニッパ等で切断します。
※ソケットは一度圧接すると再圧接できませんので十分確認の上圧接してください。ソケットは10個添付しています。

4.電話端子台のソケットプラグに接続します。

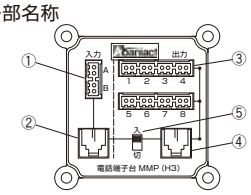


電話端子台ソケットの接続

お客様の電話・インターネット利用のご要望がわかっている場合は、ご利用状況に合わせて接続してください。
不明の場合は、①加入電話回線で接続してください。

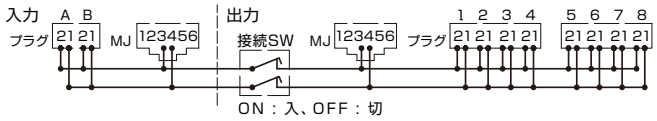
加入電話回線を解約して、光電話もしくはIP電話に変更される場合は、電話端子台の「入力」ポートに接続されている、加入電話回線の引込み線を外す、もしくは入力接続スイッチを「切」にしてください。

各部名称

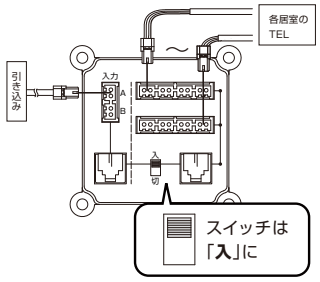


①回線入力用プラグ
②ADSL用モジュラージャック
③居室出力用プラグ
④光(IP)電話出力モジュラージャック／ADSL出力(TEL)用
⑤入出力接続スイッチ

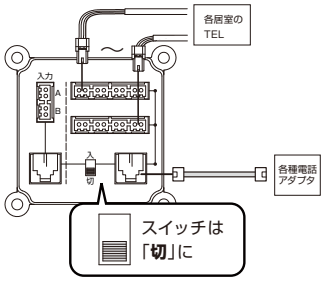
端子結線図



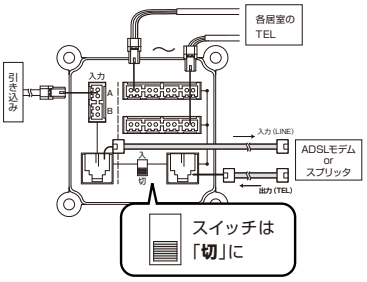
①加入電話(アナログ)



②光電話(CATV･IP電話)

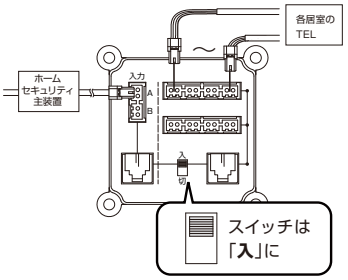


③ADSL

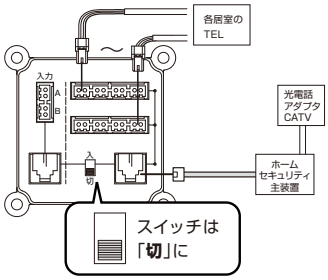


ホームセキュリティ契約の場合 ※本電話端子台の手前で接続してください。

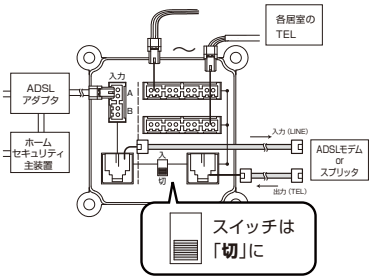
①加入電話(アナログ)



②光電話(CATV･IP電話)



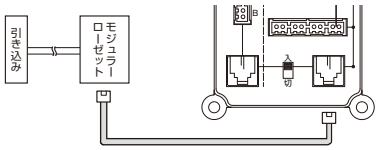
③ADSL



モジュラーローゼットを使用する場合

加入電話回線の引込線を、モジュラーローゼットで終端する場合は、ローゼットと電話端子台をモジュラーケーブルで接続してください。

※ローゼットはお客様にてご用意ください。

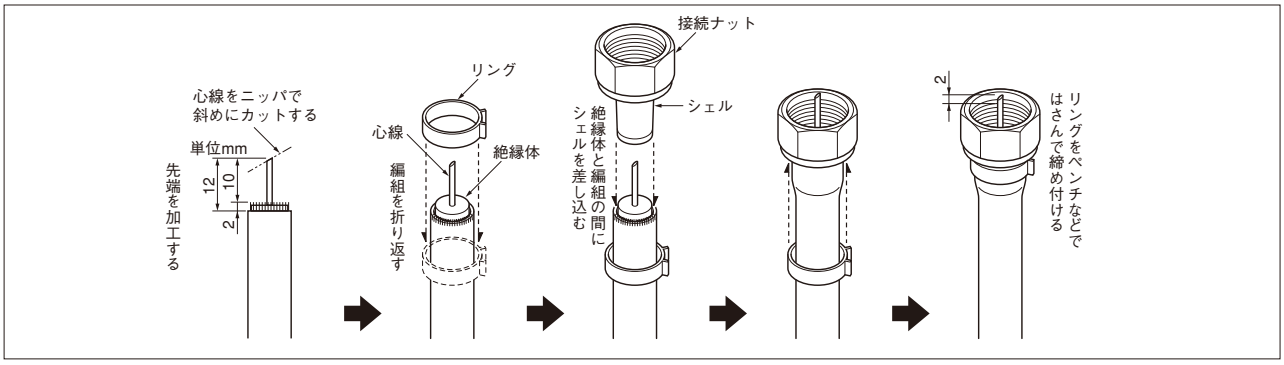


5 ＴＶケーブル結線方法（TV機器付の場合）

同軸ケーブル（S-5C-FB）へのF型接栓 結線方法

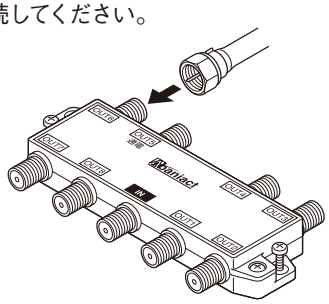
同軸ケーブルの接続施工は、下図のように行ってください。

※同軸ケーブルの先端加工をする場合、心線・編組を傷つけますと断線の原因となります。また、心線と編組は絶対に接触しないようにしてください。



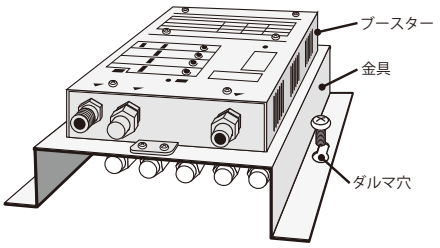
分配器の接続

※TVの電波受信が弱い地域等、映像に乱れが生じる場合には、分配器の空端子に絶縁抵抗（ダミー抵抗）を接続してください。



8分配器例

※ブースター搭載機種については、分配器はブースター金具の下に設置されています。金具の両耳のダルマ穴を緩め、金具を取り外してケーブルを接続してください。



マルチブースタ（AV-M30L2）への接続方法（ブースタ搭載機種の場合）

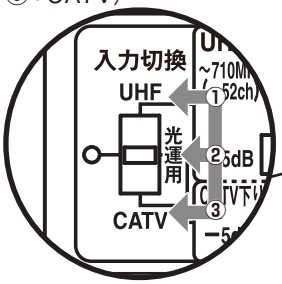
マルチブースタの設定で必要な基本項目です。

地上波の受信手段によってスイッチを切り替えてください。

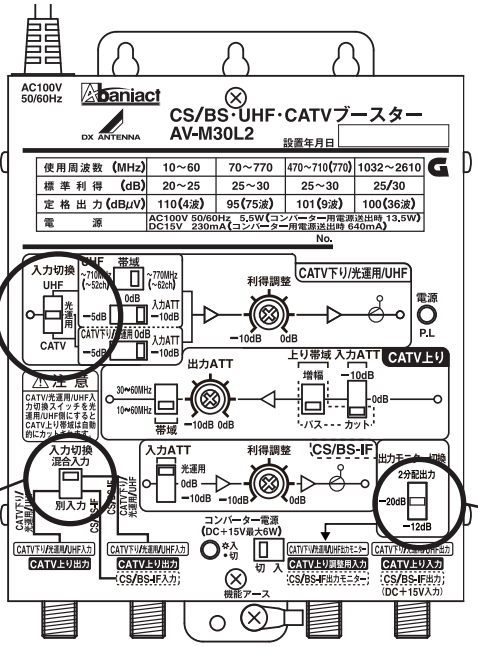
①：UHFアンテナ

②：光運用《FTTHサービス》

③：CATV）



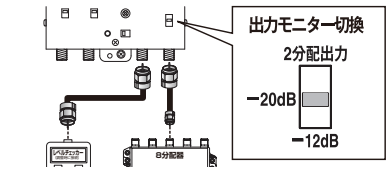
地上波とBS／CSの入力は、混合入力か別入力かで、スイッチの上下を切り替えてください。



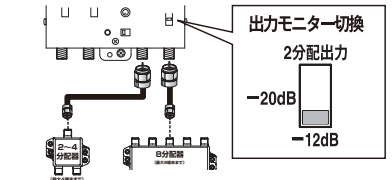
この他の接続、調整方法については、付属の取扱説明書をご参照ください。

出力モニターは、①～③の3パターンで出力レベルを使い分けることができます。利用用途にあわせてスイッチを切り替えてください。

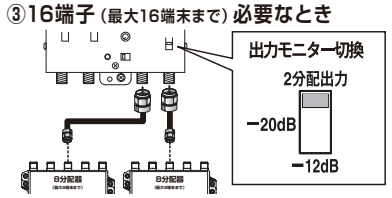
①調整（レベル確認）・メンテナンスのとき



②9～12端子（最大12端末まで）必要なとき



③16端子（最大16端末まで）必要なとき



6 LANケーブル結線方法

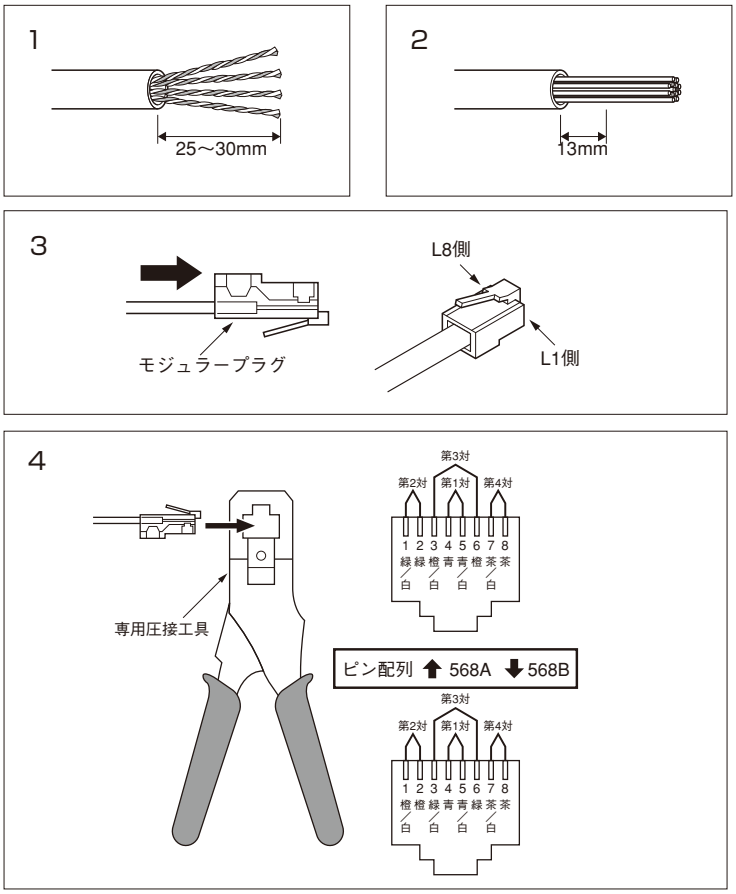
LANモジュラージャック加工方法（Cat5eの場合）

1.ケーブルの被覆を約25mm～30mm剥ぎます。
※芯線にキズを付けない様にしてください。

2.芯線の撚りをもどし、シースの端から13mm残して切断します。
※ケーブルの残しは13mm以上にも以下にもしないでください。

3.ケーブルの先端の色線を以下のように一列に揃え、モジュラープラグの先端に突き当たるまで挿入します。
※ケーブル色線配列は568Aと568Bの2種類があります。
必ず情報コンセント側の結線と合わせてください。

4.ケーブルが挿入されたモジュラープラグを専用の圧接工具にて圧着します。
※ケーブルがプラグ先端まで突き当たり、抜けない様にしっかり圧着されていることを確認してください。

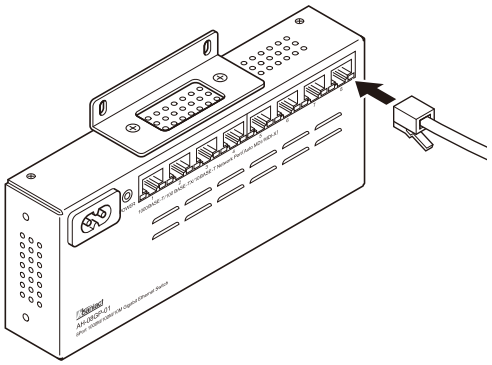


8ポートHUBへの結線方法（HUB搭載機器の場合）

LANケーブル端末加工後、8ポートHUBに整然と差し込んでください。
ポートは、100メガHUBの場合は上向き、1ギガHUBの場合は正面に備えられています。

※HUB搭載なしの場合は、後程お施主様がLANケーブルを接続しやすいよう、配線を分かり易い位置にまとめておいてください。

※HUBの詳しい取扱い方法は、添付の取扱説明書をご参照ください。



7 電源線接続方法（電源タップ付の場合）

電源タップへの接続・仕上げ手順

1.仮止めされているコードを外し、各線に差込コネクタが接続されていることを確認します。

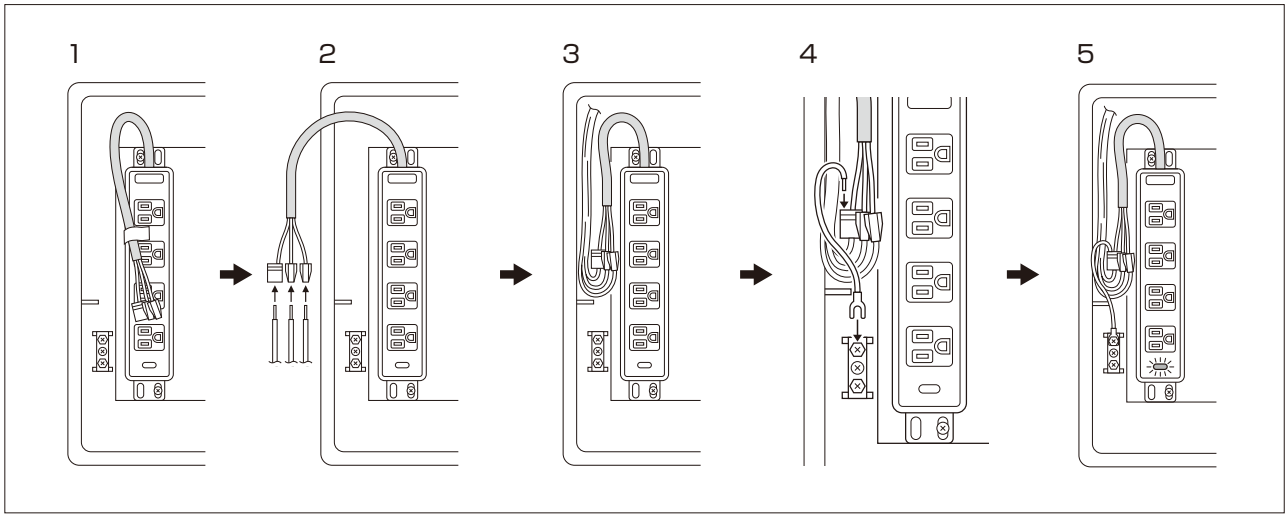
黒、白	2口
緑（アース用）	3口

2.電源線の被覆を剥き、各線色同士、差込コネクタを利用して結線します。
※差込コネクタへの結線方法は、下記を参照ください。

3.確実に結線されたことを確認した上で、BOX右端のガタースペースに整然と収めます。
❗お客様の手に触れないよう、しっかりと収めてください。

4.BOX付属のアース端子へは、差込コネクタから渡り線を施工してください。

5.ブレーカを上げて、通電を示すパイロットランプが点灯していることを確認します。



差込コネクタへの結線方法

1.電線の被覆を12mm～13mm剥ぎます。
❗芯線にキズをつけない様にしてください。
※対応電線：Cu単線 φ1.6、φ2.0

2.差込コネクタへ、1本ずつ突き当たるまで差し込んでください。
※差込が不十分だと発熱する恐れがあります。

3.電線が奥まで入っているか、目視で確認してください。
さらに、電線を1本ずつひっぱり、抜けない事を確認してください。